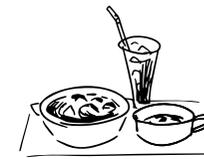


# Wellness & Medical Care

## 子どもの「食育」を考える ⑦



子どもの頃から  
地域に触れよう  
環境に触れよう

日々の子育てで悩みは尽きません。子どもの健やかな成長を願うとき、どのような教育が大切なのでしょうか。

ノーベル経済学賞を受賞したジエームズ・J・ヘックマン博士は、幼児期(0歳〜5歳)には、IQ(知的指数)といわれる読み書きや算数などの「認知的能力」よりも、「非認知的能力」といわれる、目標に向かって頑張る力、敬意や思いやりを持って人とかかわる力、情動(自尊心、樂觀性、自信)を持つ力、つまり、「共につながり生きる力」の教育が大切だと言っています。

この「非認知的能力」を育む環境は「子どもが五感を通し心動かされ、主体的に行動できる環境」といわれ、その一つに自然環境や食を通じた環境が挙げられます。

私は都市に住む保育園児を対象に、里山の竹を活用した食の教育プログラムを実施したことがあります。お友達と協力して大きな竹運び、みんなで食べる流しそうめんに笑顔いっぱいの子どもたち。その後の調査で、流しそうめんを

きっかけにお箸の使い方を頑張って練習する子、食べ残しがなくなる子、園内でミニトマト栽培を始めた子など、食・自然への興味関心が高まることを確認できました。

このような幼児期に楽しく遊んだ体験やさまざまな記憶は、成長した後も「懐かしい風景」として私たちの心に残ります。これを「原風景」と呼び、人格形成や子どもの進路にも影響するといわれています。つまり、地域に触れ、環境に触れた幼児期の記憶は「原風景」となり、食や環境への関心や価値観、行動につながるのです。

お子さんと「ちよつとそこまで」出かけてみませんか？お子さんが地域の中から「心動かされた笑顔になったりする場所」を発見してくれると思います。その場所が子育てに奮闘される皆さんの「癒しの場所」になり、いつかお子さんの幸せな「原風景」になることを願っています。



東京農業大学地域環境科学部  
地域創成科学科准教授  
町田 怜子 先生

2014年4月より東京農業大学地域環境科学部造園科学科助教、  
2017年4月より同学部地域創成科学科助教を経て2018年10月より准教授。

### 東京農業大学

総合農学の観点からSDGsの課題解決に貢献する国内外のあらゆる教育・研究を展開。地球の豊かな未来に貢献できる人材を育成している。  
<https://www.nodai.ac.jp/>

情報誌 **MiS-MO** 2月号 に掲載されています

